

第7章 圏域の取組

神戸圏域

管内市町

神戸市

第2次計画の目標

生活習慣病の予防、重症化の抑制など生涯を通じて各ライフステージに応じた健康づくり施策を推進し健康寿命の延伸に取り組むとともに、地域間で生じる健康格差の縮小対策に取り組めます。

現状

令和元年の平均寿命は平成22年と比較して男性で、2.2年(79.60年→81.80年)、女性で2.0年(86.0年→88.0年)増加しました。

同期間における健康寿命は、男性で1.54年(70.10年→71.64年)、女性で1.78年(73.33年→75.11年)増加しましたが、健康寿命の増加分は平均寿命のそれを下回っています。

圏域の主な健康課題

健康寿命の延伸のため、コロナによる健康二次被害を含む、以下の課題について取り組んでいきます。

<主な項目>

- 健康寿命の増加分が平均寿命の増加分を下回っている
- 自殺死亡者数が増加傾向
- 自立支援医療（精神）の申請者数が増加傾向
- 生活習慣病の予備軍・該当者の割合が増加傾向
- がん検診受診率が低い
- 要支援・要介護認定率が増加傾向
- 12歳の1人平均むし歯数の地域格差が拡大傾向

第3次計画の目標

市民の健康データ等の分析による科学的根拠等を基に、生涯を通じた健康へのアプローチ（ライフコースアプローチ）を踏まえた健康施策を展開し、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目指します。

阪神圏域 阪神南県民センター管内

管内市町

尼崎市、西宮市、芦屋市

第 2 次計画の目標

生活習慣の改善に向けて、朝食欠食者や習慣的な喫煙者の割合減少を目指します。

特定健診受診率、特定保健指導実施率の向上を目指し、市間格差の縮小を図ります。

がん検診や歯科検診の受診率向上を図ります。

目標の達成状況と評価

朝食欠食率については、前回調査時（平成 28 年度）阪神南 10.2%から、令和 3 年度調査では 4.7%に低下し、前回調査時の兵庫県値 7.6%を下回り、おおむね目標は達成できましたが、引き続き、若い世代への正しい食習慣の普及啓発を進めていきます。

特定健診受診率は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、令和 2 年度に減少しましたが、令和 3 年度からは回復傾向にあります。

市間の差としては、平成 28 年度には最大 5.3%でしたが、令和 3 年度には最大 9.7%に差は広がっているため、引き続き、市間格差の縮小を図ります。

現在の圏域課題

特定健診・特定保健指導の状況について、阪神南の受診率及び保健指導実施率は、兵庫県値と比較すると高くなっています。市町別では、尼崎市の健診受診率、芦屋市の保健指導実施率が県平均よりも低くなっています。

生活習慣の状況について、令和 3 年度健康づくり実態調査報告書によると阪神南では「現在、健康な状態である」と回答した者が 85.9%あり、県全体の 85.6%よりやや高くなっています。

喫煙について、「毎日吸っている」と回答した割合は、阪神南（14.7%）が最も高くなっています。

飲酒では、「毎日」（18.1%）と回答した割合は、兵庫県値（19.4%）と比較す

ると低いですが、多量飲酒者（1日平均純アルコール60gを越えて飲む者）は、5.1%と県下で最も高くなっています。

引き続き、保健医療関係者や健康ひょうご21県民運動参画団体等と連携・協力し、生活習慣病の発症予防と重症化予防の取組を協議・検討していく必要があります。

第3次計画の目標

健康な生活習慣の確立と定着をめざし、若い世代からの食育の実践、喫煙防止の取組や歯及び口腔の健康づくり等、各市における取組を支援します。

オーラルフレイル・口腔機能低下症を評価する歯科検診について検討します。
特定健診受診率、特定保健指導実施率の向上を目指し、市間格差の縮小を図ります。

がん検診や歯科検診の受診率向上を図ります。

阪神圏域 阪神北県民局管内

管内市町

伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町

第 2 次計画の目標

- ・生涯にわたり健康で生き生きとした生活ができる地域の実現～健康寿命の延伸～
- ・住み慣れた地域で多様性のある健康づくりの取組みの推進

目標の達成状況と評価

第 2 次策定時に比べ平均寿命は男性 +0.42 歳、女性 +0.99 歳延伸し、健康寿命も男性 +0.39 歳、女性 +0.90 歳延伸しています。各市町が目標達成に向け取り組んでおり、平均寿命と健康寿命は男女ともに県内で最も高くなっています。しかし、平均寿命と健康寿命の差は令和 2 年では第 2 次策定時と比べ差が縮んでいる市町もありますが、管内では男性 1.53 歳（県平均 1.44 歳）、女性 3.38 歳（県平均 3.16 歳）と差が大きくなっており、依然として県平均より高くなっています。そのため目標は未達成です。

宝塚・伊丹健康福祉事務所では特定健診受診率及び特定保健指導実施率の向上推進のため、外部講師を招き、対象者に対するアプローチ方法や行動変容を促す方法など、国保保健事業研修会を市町に対し行っています。また各市町では、県主催の特定健診・保健指導実施率向上アドバイザー派遣事業に参加し、勧奨や開催方法等を検討する場を作り、過去の健診や医療受診歴に応じた案内や、受診しやすい日時の設定、Web 予約の導入、翌年度以降対象者へのアプローチなどの受診促進を行いました。その結果、新型コロナウイルス感染症の影響もあり受診率は減少していましたが、令和 2 年度と比べ令和 3 年度は各市町とも増加し、管内では 1.8%pt 増加しています。特定保健指導実施率では、令和 3 年度時点では未だ県平均を下回っていますが、イベント型の特定保健指導や未利用者への案内強化、ICT を活用した保健指導環境の整備を行うことで、阪神北部全体では平成 27 年度から 10.2%pt 増加し、目標は未達成ですが改善しています。

ハイリスク者に対しては、電話や訪問を通じた受診勧奨や健康づくり教室などの実施、医師会とも連携を行うなど、未治療・治療中断者に積極的なアプローチを行い、未治療患者は減少しています。しかし高血圧患者や糖尿病性腎症、糖尿病患者の割合は増加しており、重症化予防のためには、継続して受診・治療を

受ける必要があります。同時に生活習慣の改善も図る必要があるため、特定保健指導の実施率を高めていくことが求められています。

高齢者フレイル対策では各市町において、いきいき百歳体操や食や口腔に関するフレイル対策講座等が行われています。高齢部門だけでなく健康づくり担当課や他機関と連携しながら取り組んでいる状況です。また、自身の体力にあわせウォーキング等の目標設定をするチャレンジや、効果を客観的に確認できるようなフレイル対策サポートアプリの導入、福祉サポーターポイント事業の実施など、高齢者の社会参加による介護予防事業も実施しており、多様性のある取組が行われています。各市町の継続した住民への働きかけにより、住民自ら行動するような体制づくりの強化が行われています。

現在の圏域課題

平均寿命と健康寿命の差を縮小し、日常生活動作が自立している期間を伸ばしていくことが必要です。

死因別 SMR では県平均より低い項目が多いですが、第 2 次策定時と比較すると悪性新生物や心疾患、脳血管疾患、腎不全の死亡率は高くなっています。特に、くも膜下出血(男 127.1(県 120.2)、女 100.6(県 99.3))、心筋梗塞(男 122.3(県 115.9)、女 132.3(県 115.6))は県平均より高くなっています。これらの病気が後遺症等の影響をもたらし、健康寿命の延伸を妨げている可能性が考えられます。

このため、特定健診受診率及び特定保健指導実施率を高めていき、病気の早期発見・治療や生活習慣を改善していくことにつなげる必要があります。さらに高血圧、糖尿病等の生活習慣病の重症化予防の強化が必要です。

第 3 次計画の目標

- ・ 引き続き健康寿命の延伸に取り組みます。
- ・ 特定健診受診率や特定保健指導実施率、がん検診受診率のさらなる向上を目指し、早期受診による重症化予防対策を行います。
- ・ 住み慣れた地域で一人ひとりができる限り自立した生活を送ることができるよう、健康的な生活習慣の定着と、住民自ら行動するような健康づくりの取組の推進を行います。

東播磨圏域 東播磨県民局管内

管内市町

明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町

第 2 次計画の目標

- ① 糖尿病標準化死亡比の低下を図ります。
- ② HbA1c、空腹時血糖の有所見者の割合の減少を図ります。
- ③ 特定健診の受診率の向上を図ります。

目標の達成状況と評価

- ① 糖尿病標準化死亡比(平成 28 年-令和 2 年)は、県平均(男性：101.7、女性：100.5)より高く、平成 23 年-平成 27 年と比較して男性は減少、女性は微増しています(男性：127.3→112.0、女性：132.0→133.5)。
- ② HbA1c5.6%以上の有所見者割合(平成 30 年)は、平成 25 年と比較して男女ともに増加しています(男性：38.4%→48.9%、女性：44.8%→50.7%)。空腹時血糖 100mg/dl 以上の有所見者割合(平成 30 年)についても、平成 25 年と比較して男女ともに増加しています(男性：29.5%→40.6%、女性：16.8%→22.2%)。
- ③ 特定健診受診率(令和 3 年度)は、平成 27 年度と比較して、東播磨圏域では低下していますが(29.1%→27.7%)、市町別にみると播磨町は増加しています(32.2%→35.0%)。

現在の圏域課題

- (1) HbA1c5.6%以上の有所見者割合(平成 30 年)及び空腹時血糖 100mg/dl 以上の有所見者割合(平成 30 年)は、前回計画時(平成 25 年)より増加しています。また、BMI25 以上の有所見者割合(平成 30 年)についても、男女ともに前回計画時より増加しています(男性：30.7%→35.0%、女性：17.0%→19.3%)。
- (2) 心疾患標準化死亡比(平成 28 年-令和 2 年)は、男性は全国平均と比較して高く(100.3)、女性は全国平均と比較して有意に高くなっています(108.0)。前回計画(平成 23 年-平成 27 年)と比較して男性は有意に高く(92.6→100.3)、女性は有意ではないが高くなっています(107.2→108.0)。

脳血管疾患標準化死亡比(平成 28 年-令和 2 年)は、男性は全国平均と比較して高く(110.5)、女性は全国平均と比較して低く(99.8)なっていますが、前回計画(H23-H27 年)と比較して男性は有意に高く、女性は有意ではないが高くなっています(男性：96.3→110.5、女性：98.8→99.8)。

- (3) 収縮期血圧 130mmHg 以上の標準化該当比(平成 30 年)は、男女ともに県平均と比較して有意に高くなっています(男性：101.9、女性：104.1)。LDL コレステロール 140mg/dl 以上の標準化該当比は、男女ともに県平均と比較して有意に高くなっています(男性：103.2、女性：104.8)。
- (4) 特定健診受診率(令和 3 年度)は、県(33.0%)と比較して東播磨圏域は低くなっており(27.7%)、市町別の受診率で見ると、県と比較して播磨町は高く、他の 3 市 1 町は低くなっています。

第 3 次計画の目標

- (1) HbA1c5.6%以上、空腹時血糖 100mg/dl 以上、BMI25 以上の有所見者割合の減少を図ります。
- (2) 心疾患標準化死亡比及び脳血管疾患標準化死亡比の減少を図ります。
- (3) 収縮期血圧 130mmHg 以上の割合の減少、LDL コレステロール 140mg/dl 以上の者の割合の減少を図ります。
- (4) 各市町の特定健診受診率の向上を図ります。

北播磨圏域 北播磨県民局管内

管内市町

西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町

第 2 次計画の目標

1. 健康寿命を延伸させます。
2. 特定健診・がん検診受診について、健康意識を高め、受診率の向上を図るとともに、市町間格差をなくします。
3. 悪性新生物、特に女性の胃がん及び心疾患の死亡率を増加させません。
4. メタボリックシンドローム、脂質異常症、高血圧等を減少させます。
5. フレイル（虚弱）状態や認知症を予防することにより、要介護者の増加を防ぎます。

目標の達成状況と評価

1. 健康寿命は、前回調査時（平成 27 年）と比較して男女ともに延伸（男：1.17 ポイント、女：0.59 ポイント）しています。
2. 特定健診・がん検診受診の受診率は概ね県平均かそれ以上であり、新型コロナウイルス感染症の影響もあり多くの市町で 2 カ年連続で受診率が低下していましたが、令和 3 年度は改善傾向です。受診率の市町間格差は、県のアドバイザー事業の活用や関係団体との連携等に取り組み、その差が縮小するなど一部効果が出ています。
3. 男女ともに急性心筋梗塞（SMR 男：120.8、女 123.5）、女性の心不全（SMR 125.2）、男性のくも膜下出血（SMR 159.1）の標準化死亡比が全国平均と比較して有意に高くなっています。また、悪性新生物は女性の胃がんで有意に高い市町があります。
4. 特定健診におけるメタボリックシンドローム該当者、高血圧、脂質異常の標準化比は、市町間格差はあるが有意に高い状況が続いています。また、糖尿病についても有意に高くなっています。
5. フレイル予防に関する取組及び認知症支援に関する地域の人材育成や交流基盤の整備等、認知症の人やその家族を支えるための取組が進みました。高齢者人口の増加に伴い要介護者も増加していますが、要介護者と高齢者人口の増加率は同程度です。

現在の圏域課題

- ・特定健診の項目で、メタボリックシンドローム該当者、高血圧、高血糖、脂質異常が全県比で有意に高い市町が多くなっています。
- ・男性の喫煙者の割合（平成 30 年 35.3%）が高く、喫煙率低下に向けた取組を行う必要があります。
- ・自殺者数は近年多少の増減はあるものの横ばいの状況ですが、自殺率は全県と比較して高くなっています（3 力年（令和元年～令和 3 年）平均自殺率 県：16.0 圏域：18.6）。
- ・今後、更なる高齢化に伴う要介護者の増加、生産年齢人口の減少による介護職不足が見込まれるため、介護予防の取組を進める必要があります。

第 3 次計画の目標

- ・生活習慣病予防を推進し、メタボリックシンドロームの危険因子となる脂質異常症、高血圧症を減少させます。また、喫煙者の割合の減少を図ります。
- ・こころの健康に関する啓発に努めるとともに、相談窓口の周知や関係機関との連携強化に取り組むなど、地域における支援体制の充実を図り、自殺率の低下を図ります。
- ・介護予防に資する通いの場（住民主体の体操教室等）への参加者数を増加させます。

播磨姫路圏域 中播磨県民センター管内

管内市町

姫路市、市川町、福崎町、神河町

第 2 次計画の目標

1. 特定健診の受診率・特定保健指導の実施率の向上を図ります。
2. がん検診の受診率の向上を図ります。
3. 小学生の肥満児出現率の減少を目指します。
4. 小・中学生のむし歯有病者率の減少を目指します。

目標の達成状況と評価

1. 特定健診の受診率は、いずれの市町も県平均を上回っているものの、前回調査（平成 27 年度）より減少した市町もあります。特定保健指導の実施率は、市町により微増もしくは減少しました。
2. 神崎郡はいずれのがん検診も受診率が向上しましたが、姫路市は乳がん検診以外のがん検診で受診率が減少しました。
3. 姫路市、神崎郡いずれも、肥満児出現率が増加しました。
4. 小・中学生いずれの学年も、むし歯有病者率が減少し、県平均との差が縮まりました。

現在の圏域課題

1. 健康増進課作成の令和 2 年健康寿命によると、男性は 79.50 年、女性は 84.26 年で、県平均（男:80.41 年、女:84.93 年）と比して男女ともに短くなっています。
2. 「平成 28 年～令和 2 年 兵庫県死亡統計指標」によると、死因別では、心疾患（同男:117.7、同女:125.2）、急性心筋梗塞（同男:145.5、同女:143.0）心不全（同男:129.9、同女:148.1）、脳内出血（同男：197.8、同女：160.1）腎不全（同男：131.4、同女：119.8）について男女ともに有意に高く、糖尿病については男性（SMR:128.8）に、高血圧性疾患については女性（SMR:170.8）に有意に高くなっています。
3. 兵庫県国保医療課作成資料によると、特定保健指導の実施率について、姫

路市（11.4%）では前回調査よりも微増したものの県平均（28.9%）より低くなっています。神崎郡ではいずれの町も前回調査から減少（2.1~5.8 ポイント）しました。

4. 「令和 4 年度保育所、認定こども園、幼稚園及び学校における歯科健診結果 調査報告書」によると、小・中学生のむし歯有病率は、平成 28 年度同調査報告書からは減少（10.1~15.8 ポイント）しましたが、小 2 以外では依然全県と比べると高く（0.6~6.5 ポイント）なっています。また、「令和 3 年度健康づくり実態調査報告書（成人）」によると、かかりつけ歯科医を決めている人の割合（77.8%）や、この 1 年間に歯科健康診査を受けた割合（59.3%）が低くなっています。

第 3 次計画の目標

1. 特定健診の受診率・特定保健指導の実施率向上を図ります。
2. がん検診の受診率の向上を図ります。
3. 生活習慣病を予防し重症化を防ぎ、高血圧症及び心疾患の標準化死亡比の低下を図ります。
4. 全世代が、かかりつけ歯科医を持ち、定期健康診査を受診する人の割合を増やします。

播磨姫路圏域 西播磨県民局管内

管内市町

相生市・たつの市・赤穂市・宍粟市・太子町・上郡町・佐用町

第 2 次計画の目標

- 1) 特定健診受診率向上、特定保健指導実施率向上、メタボリックシンドローム割合の減少
- 2) 肝がん対策（肝炎ウイルス陽性者の支援体制構築等）
- 3) かかりつけ歯科医を持つ人の割合増加、乳幼児・学童等の歯科保健指標改善

目標の達成状況と評価

- 1) 特定健診受診率・特定保健指導実施率ともに、西播磨は全県より高いが市町間格差があります。市町間格差を縮小し、さらなる受診率向上を図る必要があります。
- 2) 肝がん対策では平成 30 年度に西播磨地域で肝炎ウイルスキャリア対象者への紹介状（精密検査依頼書）様式等体制構築し、各市町がん対策を推進しています。
- 3) かかりつけ歯科医をもつ人の割合（令和 3 年度健康づくり実態調査）は 79.6%と県平均（78.0%）より高い。「3 歳児むし歯のない人の割合」は令和 3 年では 85.8%（令和 4 年 4 月時点県健康増進課報告に基づく）であり、平成 27 年（80.3%）と比較し歯科保健指標が改善しています。

現在の圏域課題

生活習慣病予防として、がん検診・特定健診はコロナ禍における受診控えの影響も懸念されており、引き続き受診率向上の取組を行う必要があります。とりわけ、糖尿病については H28-R2 の SMR が H23-H27 と比べて、また県平均よりも高く、特に男性は県下でもっとも高い値を示しています。このため糖尿病対策、重症化予防について今後重点的に取り組む必要があります。

加えて感染症（新型コロナウイルス感染症等）の健康危機における外出自粛等の健康づくりへの影響についても西播磨健康福祉推進協議会健康づくり部会で指摘されており、オーラルフレイル対策も含めた平時からのフレイル予防の取組を充実させる必要があります。

糖尿病SMR	H23-H27	H28-R2
男性		
西播磨	118.1	139.4
兵庫県	103.4	101.7

糖尿病SMR	H23-H27	H28-R2
女性		
西播磨	115.8	117.4
兵庫県	104.8	100.5

【糖尿病 SMR】

第 3 次計画の目標

- 地域職域連携含め糖尿病重症化予防等を推進し糖尿病 SMR の低下を目指します。
- がん検診及び特定健診受診率等の向上を目指し、市町間格差の縮小を図ります。
- 平時からオーラルフレイル・フレイル予防に積極的に取り組み、健康危機時の影響を減少させます。(個々の貯健と危機時にも継続できる体制整備)

但馬圏域 但馬県民局管内

管内市町

豊岡市 養父市 朝来市 香美町 新温泉町

第 2 次計画の目標

- ① 高齢者の BMI 値 20 以上の割合を高め、低栄養の予防や改善を図ります。
- ② 市町が医師会と連携した糖尿病対策を実施します。
- ③ 歯周病に関する知識の普及と歯科の定期（年 1 回）健診受診者の割合を高めるとともに、50 歳以降の 8020 目標値の達成率向上を目指します。

目標の達成状況と評価

- ① ひょうご栄養・食生活実態調査によると、70 歳以上の BMI 値 21.5 未満の割合は、前回調査時（平成 28 年度）と比較して 0.2 ポイント上昇しました。全県値との比較も 2.1 ポイント高く、高齢者の低栄養は改善していません。
- ② KDB 補完システムによると、糖尿病受診率は県平均より高く推移し、人工透析者数（うち糖尿病患者数）と合わせて年々増加しています。医療機関や医師会と連携した糖尿病性腎症重症化予防事業（連携会議、啓発事業、患者指導）の取組は、管内全市町に広がっています。
- ③ 兵庫県健康づくり実態調査によると、歯周病の症状を理解している人の割合は増加し、過去 1 年間の歯科定期健診受診者の割合も 9.4 ポイント上昇しました。50 歳以降の 8020 目標達成者割合も各年齢層で向上しており、県平均と比べると低いものの前回調査時（平成 28 年度）と比べると多くの項目で改善しています。

現在の圏域課題

- ① 高齢化率 37.6% を占める但馬圏域は、70 歳以上の BMI 値 21.5 未満の割合は 0.2 ポイント上昇し、県平均と比較しても高い状態が継続しています。今後も、高齢者の低栄養対策のさらなる推進が必要です。
- ② 但馬圏域の糖尿病患者数、糖尿病性腎症による人工透析患者数は年々増加しており、糖尿病性腎症重症化予防事業の取組のさらなる推進が必要です。

第 3 次計画の目標

- ① 高齢者の BMI 値 21.5 以上の割合を高め、低栄養の予防や改善を図ります。
- ② 糖尿病未治療者数、糖尿病性腎症による人工透析患者数の減少を目指し、さらなる糖尿病性腎症重症化予防事業の継続・充実に取り組みます。

丹波圏域 丹波県民局管内

管内市町

丹波篠山市、丹波市

第 2 次計画の目標

- 1 睡眠の改善やストレスを大いに感じている人の割合を減少させるとともに、自殺死亡率の低下を図ります。
- 2 飲酒の健康への影響について理解を進め、多量飲酒者の減少を図ります。
- 3 野菜不足および食塩過剰摂取の現状を理解するとともに、野菜および食塩の目標摂取量を達成している人を増やします。

目標の達成状況と評価

- 1 令和 3 年度兵庫県健康づくり実態調査によると、平均睡眠時間が 6 時間未満の人は平成 28 年と比較して 7.1%減少し、「悩み、苦勞、ストレス、不満がよくある人」は 11.3%減少しました。地域自殺実態プロファイル 2022 年更新版（JSCP）によると、自殺者数、自殺死亡率も減少傾向ですが、年齢調整自殺死亡率は、男性は 33.1（平成 26 年～平成 30 年）から 28.6（平成 29 年～令和 3 年）に減少したものの他圏域より高く、女性は 9.1（平成 26 年～平成 30 年）から 9.4（平成 29 年～令和 3 年）に微増しました。
- 2 令和 3 年度兵庫県健康づくり実態調査によると、多量飲酒者、リスク飲酒者の割合は平成 28 年と比較して横ばいですが、県平均より低くなっています。生活習慣病の危険を高める飲酒量を正しく知っている人の割合は、平成 28 年度と比較して男女ともに 5%以上増加し、理解が進みつつあります。
- 3 令和 3 年度ひょうご栄養・食生活実態調査によると、野菜料理を 1 日 5 皿以上食べる人は 2.9%増加し、野菜をたくさんとることをいつも実践している人は 7.3%増加、減塩への取組をいつも実践している人も 8.4%増加し、食育への意識が向上しつつあります。

現在の圏域課題

- 1 ひょうご健康づくり支援システムによる平成 30 年度の特定健診データ分析結果によると、県全体と比較して、血圧（収縮期）130mmHg 以上の標準化該

当比は男性 105.2、女性 111.0、HbA1c (NGSP) 5.6%以上の標準化該当比は男性 103.9、女性 106.3 と、高血圧や糖尿病に関連する項目が有意に高くなっています。また、令和 4 年度医療費等分析資料によると、令和 3 年度の 1 人当たりの入院医療費が県全体と比較して約 16,000 円高くなっています。

- 2 令和 3 年度ひょうご栄養・食生活実態調査によると、バランスの良い食事（1日に2回以上、主食、主菜、副菜の3つを組み合わせることを週6日以上実践する人は、平成 28 年と比較して 8.4%減少し、県平均より低いことから、食育への意識向上をさらに推進する必要があります。
- 3 兵庫県死亡統計指標によると、自殺による標準化死亡比（平成 28 年～令和 2 年）は男性 142.8、女性 94.3 で、男性は県平均を上回り、全国平均より有意に高くなっています。地域自殺実態プロファイル 2022 年更新版（JSCP）によると、特に 20～50 代男性の自殺死亡率が高くなっています。

第 3 次計画の目標

- 1 生活習慣病重症化予防のため各種健診受診率を向上させます。
- 2 バランスの良い食事や、野菜・果物・食塩摂取量改善に取り組む人を増加させます。
- 3 「自殺したい」と思うほどの悩みを抱えた時に誰かに相談する人や、身近な人に相談された時に医師や専門家に相談を促す人を増加させます。

淡路圏域 淡路県民局管内

管内市町

洲本市、南あわじ市、淡路市

第 2 次計画の目標

1. 生活習慣を改善し、メタボリックシンドローム該当者を減少させます。
2. 自立している高齢者の割合の増加を目指し、健康寿命の延伸を図ります。
3. かかりつけ歯科医を持ち、定期健康診査を受診し、口腔ケアを適切に行う人の割合を増やします。(誤嚥性肺炎対策にも有効)

目標の達成状況と評価

目標とした項目はすべて「改善」していますが、継続した取組が必要です。

1. 身体活動・運動について「実行していて十分に習慣化している」割合(兵庫県健康づくり実態調査)は平成 28 年度 28.2%から令和 3 年度 37.2%と増加し令和 3 年全県 35.9%を上回っています。また、肥満の割合(兵庫県健康づくり実態調査)は平成 28 年度 20.2%から令和 3 年度 19.1%と減少し令和 3 年全県 21.5%を下回っており、令和 3 年度の特定健診(国保のみ)のメタボリックシンドローム該当者割合も 18.1%で全県 19.2%より低くなっています。
2. 健康寿命は 5 年間(平成 27 年～令和 2 年)で男性 1.34 歳、女性 0.98 歳延伸し、全県の延伸男性 0.79 歳、女性 0.97 歳を上回っています。特に前回は県内で最も短かった男性の伸びが大きくなっています。
3. かかりつけ歯科医を決めている割合(兵庫県健康づくり実態調査)は、平成 28 年度 68.3%から令和 3 年度 76.6%と増加し令和 3 年度全県 73.3%を上回っています。また、この一年間に歯科健康診査を「受けた」割合(兵庫県健康づくり実態調査)は、平成 28 年度 48.8%から令和 3 年度 57.4%へ増加し令和 3 年度全県 59.1%へ近づいています。

現在の圏域課題

淡路圏域は、人口減少、高齢化が進んでいる一方で、65 歳以上就業率や 75 歳以上就業率が県下で一番高く、高齢者が健康であれば活躍できる素地があることから、地域を活性化していくためには、高齢者の健康の向上に取り組む必要が

あります。

高齢者の生活の質・予後に大きく関わり、淡路圏域に多く今後も増加が予想される代表的な疾患・分野は「骨粗しょう症と骨折」、「口腔ケアと誤嚥性肺炎」、「心不全」です。

第 3 次計画の目標

高齢者の活躍による地域の活性化を目指して、健康寿命の延伸を図るための取組を継続します。

- ・ 生活習慣の見直しに向けた取組を継続して県民、関係団体、事業所、市と連携しつつ実施していきます。
- ・ 市と連携しフレイル・オーラルフレイル等の予防を推進し、いきいき百歳体操やかみかみ百歳体操等、身近な地域での取組が広がるよう進めていきます。
- ・ 「骨粗鬆症と骨折」「口腔ケアと誤嚥性肺炎」「心不全」を重点取組疾患・分野として「あわじ健康長寿の島づくり」に関係機関が連携して取り組みます。